

杉山林継博士保管写真資料の電子情報化

杉山林継博士保管写真資料とは、大場磐雄博士の資料のうち大場博士自身が携わった調査記録である35mm リバーサルフィルムを、本学日本文化研究所所長であり当プロジェクト実行委員長である杉山林継氏が保管してきた資料を指す。撮影はガラス乾板が使われなくなる昭和30年代から、大場磐雄博士が國學院大學を退職する昭和45年までの調査記録であり、ネガ・ポジフィルム(マウント加工を施したコマ数にして)およそ10,000枚である。

フィルム類の保管状況は比較的良好であるものの、リバーサルフィルムのマウントが紙質であり、マウントとフィルムが接触している部分にホコリやチリがたまり、マウント自体も劣化が進んでいることから、フィルムに付着したホコリやチリを取り払うと同時にマウントを交換した。これらの資料は撮影されてから既に30から40年の年月が経過しており、各社が提示するリバーサルフィルムの耐久年数が100年であることも受けて、今後の画像の保存と活用を目的としてリバーサルフィルムのデュープ版の作成と電子情報化を行なった。

撮影対象は、いずれも学史に残る遺跡であるうえに報告書に未掲載の資料も多く、今後も資料の利用価値の高いものであることが想定される。

平成13年度に「神坂峠」「入山峠」資料の一部、平成14年度には中央自動車道設置に伴う緊急発掘調査関連の資料うち「宇津木向原遺跡」「檜原遺跡」の資料について上記の作業を行った。このうち「神坂峠」資料については、平成14年9月22日に祭祀考古学会大会において杉山林継が研究発表を行ない、昭和48(1973)年の発掘調査当時の現地との景観比較や遺跡の保存状態を検討するなど、研究への活用を試みた。詳細は、本書「研究成果の公開活動 峠の祭祀 神坂」、補論1、補論2を参照されたい。

(加藤里美)



神坂峠発掘調査(右側 大場磐雄博士)



写真資料配架状況(一部)